

琉球大学学術リポジトリ

小学校教師の宿題を用いた学習指導

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2020-10-22 キーワード (Ja): 宿題, 小学生, 教師 キーワード (En): 作成者: 浦内, 桜, 淡野, 将太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/47089

小学校教師の宿題を用いた学習指導

浦内 桜*・淡野 将太**

Teachers' Lectures with Homework in Elementary School

Sakura URAUCHI and Syota TANNO

要約

本研究は、小学校の教師経験がある3人を対象に教師の宿題を用いた学習指導についてインタビュー調査を行った。インタビューでは宿題の内容、目的、頻度、量、思いなどについて質問した。その結果、3人という限定的な人数であったが、宿題の内容、目的、頻度、量、思いなどが異なることが明らかになった。このことから、小学校教師の宿題を用いた学習指導は、各教師の捉え方によって異なると示唆された。

キーワード：宿題、小学生、教師

問題と目的

宿題は、「課外時間に行うことを意図した学校教師から課せられた課題」として定義される (Cooper, Robinson, & Patall, 2006)。この定義は、①学校における学習指導、②メール、テレビ、オーディオまたはビデオカセット、インターネットを通じて提供される家庭学習課題、③スポーツやクラブへの参加などの課外活動を除外している。

これまでの宿題研究では、ポジティブな影響とネガティブな影響を示す研究が存在し、いまだ統一の見解は出されていない。例えば、宿題と成績に関する研究では、Cooper (1989) は、学習者が宿題に費やした時間量と成績について検討を行った50の論文を対象にメタ分析を行い、宿題及び成績の相関関係を検討した。高校生に対してはポジティブな影響があり $r = .25$ 、中学生の成績に対しては半分ほどで $r = .07$ 、小学生では成績にほとんど影響を与えず $r = 0$ であることを示した。Cooper et al. (2006) は、それまでの宿題研究文献の統合を行い、宿題のポジティブな影響とネガティブな影響をまとめた。ポ

ジティブな影響は4つあり、①学習成績への即効性 (e.g., 知識や理解度の保持増進)、②長期的な学問的利益 (e.g., 学習習慣の改善)、③学問以外の利益 (e.g., 主体性の向上)、④親及び家族への利益 (e.g., 親の学校行事への関与) だった。ネガティブな影響は5つあり、①飽和 (e.g., 学習への興味低下)、②余暇時間及びコミュニティ活動への否定、③親の干渉 (e.g., 宿題完了へのプレッシャー)、④チート行為 (e.g., 他人の宿題を写す)、⑤既存の社会的な格差増幅だった。Cooper et al. (2006) は、少数の例外を除いて宿題のポジティブ及びネガティブな影響は同時に起こると指摘している。例えば、宿題は学習者に余暇活動を我慢させてしまうと同時に、勉強の習慣を改善させると指摘している。Bempechat (2004) は、宿題の有効性をテストの点数及び成績のみに焦点を当てることは短絡的であると指摘した。宿題は、努力の価値や間違い、難しさに対処する能力や学習に役立つ学習習慣及び成績に関する信念の発達に必要な時間と経験を子供に提供し、これらの能力は一晩で発展させることは出来ないと指摘した。

宿題と成績以外の変数の関連研究では、Galloway, Conner, & Pope (2013) は、毎晩

*琉球大学大学院教育学研究科

**琉球大学教育学部

3時間以上宿題をする高校生を対象に宿題とストレスの関係について検討を行った。その結果、より多くの宿題をしている学習者は、学校における行動的関与だけでなく学校におけるストレスや肉体的苦痛が増加し、学校外で育てる家族や友人との時間などが減少することを示した。学習者の宿題に関する説明として、「時間の無駄」、「些細なことが多い」、「反復的」、「冗長」、「退屈」などがあつたことを示した。

本研究は、小学校教師の宿題を用いた学習指導を明らかにする。今回は教師経験がある3人を対象に教師は宿題をどのように捉え、どのように課しているのかについて調査する。先行研究から、教師は多数の宿題を考慮して解釈し、複雑な宿題の影響パターンを予想しなければならないと示唆される。このことから教師の宿題を用いた学習指導を明らかにすることは有用である。

方法

研究参加者

研究参加者は、小学校の教師経験がある3人(以下、A,B,C)だった。いずれもジェンダーは男だった。インタビュー時の年齢及び教師経験年数は、Aは現役教師で23歳の教師経験年数2年目、Bは教師経験者で63歳の教師経験年数34年、Cは教師経験者で57歳の教師経験年数29年だった。

手続き

インタビューは、2019年4月から5月に行った。インタビュー時間は、約1時間程度だった。質問は①宿題の内容について、②宿題の目的について、③宿題の頻度について、④宿題の量について、⑤宿題の工夫について、⑥テスト前の宿題内容について、⑦宿題のチェックについて、⑧やっけない児童への対応について、⑨保護者への対応について、⑩宿題について思うこと、だった。

結果

教師が宿題をどのように捉え、どのように課しているのかについてインタビュー調査を行った。インタビュー結果をTable 1に示す。

Table 1 インタビューの質問と回答

① 「どのような宿題を出していますか(出していましたか)」

A:算数プリント, 国語ドリル, 教科書の語彙調べ。

B: 自主学習, 日記。

C: 日記, 算数(計算)ドリル, 漢字100字, 音読。

② 「どのような目的で宿題を出していますか(出していましたか)」

A: 机に向かう習慣づけをすること。

B: 児童が、興味があることに主体的に学習しようとする。自分で課題をみつけて自分で学んでいくことに将来的に役に立つと思う。あとは学習したことの定着を高めるのも効果はあると思う。

C: 成績向上を目的としていることと達成感を身に付けさせるため。あと勉強する習慣がつくから。

③ 「宿題の頻度はどの程度ですか(でしたか)」

A: 週に3~4回。

B: 毎日出していた。

C: 毎日。

④ 「宿題の量はどの程度ですか(でしたか)」

A: 私の学校では学校全体で宿題は学年×10分出すように規定されている。

B: 2-3ページ。

C: 算数はドリルだと20問, 教科書だったら1ページ, プリントだったら1枚。漢字は100字。日記は分量自由。

⑤ 「学年ごとの宿題を工夫した点はありますか(ありましたか)」

A: 5年生しか担当したことないから。ただ、学年ごとというよりは、前任の先生がどんな宿題を出していたかというのは聞いて、工夫したりした。

B: 低学年は20分ぐらい, 中学年は40分ぐらい, 高学年は60分ぐらいを目安に自主学習をするよう伝えていた。

C: 日記は、低学年は「生活ノート」というのに書かせていた。3・4年生は横書きの大学ノートB羅。ちょっと幅が太いやつ。高学年はA羅にしていた。あと、高学年になると中学受験を控えている児童がいる。そういう児童には宿題を少な

くしたりあるいはしてこないでいいよ、ということ
はしていた。ただ他のみんなに示しがつかなくな
るから成績だけは落とすなよと言っていた。

⑥ 「テスト前の宿題形式はどのようなものです
か（でしたか）」

A：テストにプレテストがついているから、特に
理科とか社会はテスト前とかになるとそのプレテ
ストを宿題として出す。やっぱり良い点数としてほ
しい。

B：テスト前だからといって変わったことはして
いない。

C：テスト前だけ自主学習とかにはしていた。

⑦ 「宿題のチェックはいつ行っていますか（行っ
ていましたか）」

A：朝、毎朝。

B：昼休み、でも間に合わないときもあった。

C：朝見ると決めていたんです。7:30～8:15。
やってこなかったら出せないしチェックできな
い。それは学習係にチャックしてもらって、誰が
出したか出していないかすぐわかるようにしてい
た。

⑧ 「宿題をやってこない児童への対応はどうし
ていますか（どうしていましたか）」

A：休み時間にやらせる。やむを得ない場合は仕
方ないけど、忘れたとかプリントやってないだけ
とかだったら、休み時間にやってねと声をかける。

B：お喋りをしながら放課後させていた。その子
とコミュニケーションを取りながら生活習慣の改
善を図った。

C：昼休みや放課後を使っていた。ずっと続くよ
うな子は保護者に連絡したりした。

⑨ 「保護者への対応について何を行っていますか
（行っていましたか）」

A：とくに何も。サインが必要な宿題とかは出さ
ない。

B：サインが必要な宿題は出さない。でもサイン
をしてくる保護者はいた。授業参観とかで、後ろ
の方に自主学習のノートを置いていたから、そこ
で「ああ、自分の子はどういう風にどんなことを
やっているのかな」ということは分かるようにし

ていた。

C：サインは親にとって負担だから、とくに強要
はしていない。学級通信なんかにはよく載せてい
た。

⑩ 「宿題について思うことがあれば教えてください」

A：自分自身、宿題はこれやりなさいという強制
されてる感が嫌いだった。だからあんまり宿題を
出さないでおこうと思っていた。量が多ければ多
いほど成績は上がるわけでもない。質が大事だ
と思う。ただやっぱり宿題は机にむかう習慣づけ
をすることが目的だ。家で机に向かう習慣がない
子は勉強はむずかしくなってくると思う。

B：その先生一人一人の工夫があっていいと思う。
だから一番やってはいけないことは与えられた感
を与えること。与えられたから仕方なくやるとい
うノルマになってしまうような感覚になる指導は
さけるべきだと思う。最初から出来るわけではな
いけど1年間あるから軌道修正すれば良い。

C：自主学習で出した場合には、出来る子と、嫌々
だけ従う子はやるだろう。そうでない中から下
位の子にとっては、それはあまり良い指導とは私
は言えないと思う。ランク付けしてしまう。あと、
自主学習となると今習っていることではなく他の
ことしてくるかもしれない。それは、学習の指導
としてまずいと思う。自主学習というときには、
私はテスト前とかに限ってました。おまかせとい
うことで。すると子ども達は自分が足りないと思
うところをやってきた。面白い。そういう意味で
自主学習っていうのは、私は批判的だった。

考察

本研究は、小学校教師は宿題をどのように捉え、
どのように課しているのかについてインタビュー
調査を行い、小学校教師の宿題を用いた学習指導
について明らかにすることであった。その結果、
3人という限定的な人数であったが、宿題の内容、
目的、頻度、量、思いなどが異なることが明らか
になった。このことから、小学校教師の宿題を用
いた学習指導は、各教師の捉え方によって異なる
と示唆された。以下に各回答についてまとめる。

①から⑥までの回答から宿題の内容、目的、頻

度、量、工夫の仕方、テスト前内容が教師によって異なることが明らかになった。具体的には①宿題の内容は算数プリント、国語ドリル、教科書の語彙調べ、自主学習、日記、算数または計算ドリル、漢字100字、音読との回答が得られた。②宿題の目的は、学習習慣をつけるため、授業補完のため、学習の定着を図るため、学力向上のためとの回答が得られた。③宿題の頻度は週に3-4回、毎日との回答が得られた。④宿題の量は、学年×10分、2-3ページ分、算数ドリルは20問、教科書は1ページ、漢字は100字、日記は分量自由との回答が得られた。⑤宿題の工夫について、前任の先生のマネをする、学年ごとに分量を増やす、学年ごとにノートを変えるとの回答が得られた。⑥テスト前の宿題内容について、プレテストを課す、特に変えない、自主学習にするとの回答が得られた。宿題の目的は多様な回答が得られた一方で、実際に課す課題として、同型問題の反復練習や量的側面に着目していることが明らかになった。このことは、宿題ではある程度の量のドリル練習を行うものだ、というような宿題観が存在することが示唆される。また宿題の複数の工夫が提示され、テスト前の宿題として教師は宿題の内容を変えていることが明らかになった。日常的な宿題は、テストの点数に着目していないと言える。これは、Cooper et al. (2006) のポジティブな影響②長期間な学問的利益、③学問以外の利益に着目していると示唆される。

⑦から⑨までの回答から、宿題によって保護者や児童と間接的なコミュニケーションを取ることが明らかになった。具体的には⑦宿題のチェックは、朝、昼休みとの回答が得られた。⑧やっぴこない児童への対応は、昼休みや放課後を利用して課題を課す、コミュニケーションを取り生活改善を図るとの回答が得られた。⑨保護者への対応は、サインを求めないようにしている、参観日や学級

通信を利用しているとの回答が得られた。これは、Cooper et al. (2006) のポジティブな影響④親及び家族への利益の知見と一致している。今回は、宿題を通した学校と保護者のつながりだけでなく、教師と児童とのつながりの役割が宿題にあることが明らかになった。一方で宿題のサインについて、いずれも保護者に求めないと回答した。これについて教師は、保護者に宿題のチェックをしてもらうことは保護者にとって負担だと捉えていると考えられる。

⑩宿題について思うことの回答から教師によって宿題の捉え方が異なることが明らかになった。具体的には子どもの主体的な学習を促進するため自主学習を推奨し、自身も行っていると回答があった。一方で、学習の仕方がまだわかっていない児童に、自主学習をさせることは良い指導とは言えないと回答した教師もいた。また、経験上あまり宿題を課したくないとの回答が得られた。このことから小学校教師の宿題を用いた学習指導は、各教師の捉え方によって異なると示唆される。

引用文献

- Bempechat, J. (2004). The motivational benefits of homework : A social cognitive perspective. *Theory in Practice*, **43**, 189-196.
- Cooper, H. (1989). Synthesis of research on homework. *Educational Leadership*, **47**, 85-91.
- Cooper, H., Robinson, J. C., & Patall, E. A. (2006). Does homework improve academic achievement? A synthesis of research. *Review of Educational Research*, **76**, 1-62.
- Galloway, M. K., Conner, J. & Pope, D. (2013). Nonacademic effects of homework in privileged, high performing high schools. *Experimental Education*, **81**, 490-510.